

【講演会の感想】

所属の地区	感想
東部第1地区	コロナの影響が、様々なところに出ていることがわかりました。通級に通っている生徒は、不安に感じる人が多いと思うので、安心できるように支援しながら自信をもてるようにしていく大切さを再確認しました。ありがとうございました。
東部第3地区	コロナによる弊害は大きいです。マスクを外せない、相手の表情から気持ちを想像できない、友達との距離感をつかみにくくトラブルになる、など困り感を抱えるお子さんが目に見えて増えた気がします。コロナのせいにしてばかりはいられないので、1人ひとりの子どもに向きあい、じっくりと話を聞く機会を大切にしたいと思います。
静岡	コロナ禍で、様々な経験をすることができなかった子どもたちにこれから、影響が出てくると思うと本当に悲しいです。これから、より特別支援へのニーズが高まっていくなか通級指導教室として、子どもが安心できる場を作り、自信をつける声かけや活動をしていきたいです。また、子どもだけでなく保護者の方へのサポートも考えていきたいです。
静岡	講演を聞いて、確かにそういう子が増えているなどと思う場面が多くありました。子どもにとって安心できる場を作っていけるようにしたいと思えました。講演ありがとうございました。
東部第1地区	境界知能の子どもが通級に多数在籍しています。学習上の課題はもちろん、生活上の困難さも大きいです。通級指導教室でどのように支援していくかが常に課題になると思います。ご講演ありがとうございました。
東部第3地区	コロナを疑いたくなる新入生の荒れた状況が本校は3年続いている状況で、本当にタイムリーで参考になりました。共感を体験活動の大切さ、自信の前に安心を、タブレット端末に忍び寄る弊害、どれも校内で共有したいです。
東部第3地区	コロナの影響は今後さらに出てくるのかなと思います。人と関わったり表情を読むことが困難な子が増えてしまうのかなと思いますが、子どもとしっかり向き合っていきたいと思います。
東部第4地区	コロナが影響しての姿なのか、もともとの持っているものなのか判断が難しいと思いました。
志太・榛原	愛着形成の大切さが必ず根底にあるということがわかりました。
東部第2地区	改めてコロナ禍を経た子供達の今、について考えることができました。特に安心感を与えること、ユニバーサルデザインの基本に立ち返ることの大切さを確認することができました。ありがとうございました。
東部第3地区	コロナ禍で育ちにくかったことやその影響がよくわかって良かった。子供にとってこの1,2,3年間はとても大きなことだと感じた。できなかった経験を補えるような活動を意図的に取り入れていきたい。
東部第4地区	今日は具体的で実感として納得できる内容をお話ししてくださりありがとうございました。日々現場で感じていたことの裏付けを資料としてみることができました。子供たちがまず安心できる教室、学校にしていきたいと思えます。ありがとうございました。
東部第4地区	おやっと思う子は、いろいろな思いを抱えていることがわかったので、しっかりと個を見ていく必要があるとおもった。
志太・榛原	ユニバーサルデザインの効果として、集団の中で認められて安心して生活できるのだと納得しました。
磐周	支援を必要とする子どもたちの実態について、自分が感じていることについて説明があったので納得できました。なかなか難しい現状ですが、あせらず取り組んでいこうと考えることができました。ありがとうございました。
浜松	コロナ禍において、その学年で当たり前身に付いていることが、知的発達がゆっくりな子は、情報を得て学ぶことが弱いので、習得しにくいことが、わかりました。担当が、そのことを理解しているかどうかで、子供たちへのかかわり方が変わってくると思えました。安心して学べる土台作りが大切だと感じました。

小笠	<p>コロナ禍が子供達の成長に与える影響は、対人コミュニケーション不足に加え、スクリーンタイムの増加など、ますます関わりが減っている現状を見ても、深刻であることがわかりました。妙に納得したのがIQがグレーの子達の増加と、その子達の行き場のなさです。通常学級で苦しんでいる事を思うと、やはりユニバーサルデザインがとても大切だと言うことがわかりました。通級担当として、子供達が気持ちよく生活できるよう努めていこうという気持ちを改めて持つことができました。</p>
静岡	<p>コロナ禍の影響は、なんとなく感じていましたが、整理して伝えていただいたことでよく理解できました。 また、ストレス対応の観点からも、マインドフルネスの大切さが再認識できました。</p>
志太・榛原	<p>児童の言葉を録音することで、今後の指導につなげているところは、実践に取り入れたいと思いました。 安心をキーワードに学校のUDを進めていきたいと思います。</p>
東部第3地区	<p>COVID-19が5類に分類され、学校でも少しずつマスクを外して生活する子どもが増えてきました。小さなお子さんほど、人生に対しマスク生活が占める割合は増えていきますので、現在、小学校1、2年生が大変だ、という言葉はどの学校でも聞かれるように思います。コロナ前の1、2年生の実態に「戻す」という考えも大事ですが、現状が彼ら自身なので、今の彼らにとって良い対応の方法を皆で考えていくことも重要だと感じました。</p>
志太・榛原	<p>講話を聞きながら、「座ってられない子、一人でできない子」の増加など、当てはまる子どもの実態が多くありました。道徳をすると笑いが起きてしまうなど、常識的にわかるであろうことがわかっていない子も多くいました。高学年で通級に来ているお子さんの中にもゲーム時間の増加や就寝時間で悩んでいる子もいました。経験不足がコロナによって、より影響が出たと思いました。安心＝通級が自分を出せる場所であることを育てていきたいと思いました。ありがとうございました。</p>
静岡	<p>発達の視点だけでなく、コロナ禍の影響も深く子どもに関係しているということが新たな視点として勉強になりました。</p>
東部第2地区	<p>安心できるところに、自信や学習が積み上がっていくこと、発達に問題のある子どもたちもまさに、そのとおりだと感じました。特別支援学級の先生方にも伝えていきたいと思いました。</p>
小笠	<p>マスクをしていた3年間は、子供にとって大きなマイナスになっていると理論的に理解できました。本校では登校を渋る児童も増加しつつあります。子どもたちの安心と自信を高めていくために、通級担当として何ができるか、保護者・担任と連携しながら日々の指導に取り組んでいきたいと思います。今日は、ありがとうございました。</p>
東部第4地区	<p>育つチャンスがなくて苦しめるのか、発達そのものに課題があるのか、どこに困り感があるかを見極めて支援していきたいと思いました。子供達がコロナで失ったものを少しでも提供できるように心がけたいです。</p>
小笠	<p>コロナ禍の3年間で、子どもたちの育ちに与えた影響やストレスに配慮する重要性が理解できました。子どもたちに安心と自信を育むために、ユニバーサルデザインの上に立った個別支援を進めていきたいと思います。</p>
浜松	<p>コロナが5類になり、大人は比較的スムーズにコロナ前の生活に戻りつつありますが、子供たちに与えたダメージは想像以上に大きいことがわかりました。生まれた時からコロナで、愛着が十分育たなかったり、人の表情を読み取ることができない子供たちが今後どうなっていくのか…。学校、医療、福祉様々な面から注意深く見守り、寄り添っていく必要があると感じました。今日は本当にタイムリーなお話をありがとうございました。</p>
東部第2地区	<p>今日はありがとうございました。子どもたちにとってコロナの影響は大きかったんだと改めて感じました。もともと持っている発達障害に加えてその影響も重なり、困難さが増していることになるので、支援者はそれを意識して関わる必要性を感じました。軽度な知的障害の子どもたちへの支援は重要だと思いますが、支援学級ほどでもなく通級にも該当しないので支援する場がなく、今後、そういう場を設けることが必要だと思います。</p>
小笠	<p>コロナ禍にあった期間で失ったあるいは身につけられなかったことを、先生にあげて頂いたことでより鮮明になりました。分かったことで今後子ども達にできることをやっていきたいと思います。</p>
東部第4地区	<p>IQ70からIQ85の子供の特徴がよく分かった。自信をつけるためには安心が大事だということもよくわかりました。また、お話を聞く機会があったら、具体例を聞きたいです。</p>

静岡	<p>先生のお話を伺うたびに、教師が最大の環境であることを実感します。先生の理念に学びながら、日々実践していきたいと思います。</p> <p>私自身、通級での指導や通常学級での指導を通して、マスク環境下での生活は児童の生活に影響を与えたと考えています。相手の表情を見て相手の気持ちを読み取るなど、他者とコミュニケーションをとることにおいて、相手の顔が見えることは必要不可欠だと思います。これから、マスクがだんだんとれた生活になり、いままでは不要だった指導が生まれると考えます。また先生のお話を伺う機会がありましたら、学びたいと思います。</p> <p>ありがとうございました。</p>
静岡	<p>通級担当だけでなく、ぜひ多くの先生に聞いていただきたい内容でした。通級で指導している表情・仕草から、相手の立場を想像する・気持ちを考えるなどの内容は、もはやすべての子供と大人に必要な支援内容になっていると痛感しました。</p>
東部第3地区	<p>教育的ニーズが多様化していることを実感しています。生徒を取り巻く環境に目を向け、改めて自分にできることは何か考えていきたいと思いました。引き続き、通級指導教室が安心できる場所だと思ってもらえるよう、アプローチしていきたいと思います。</p>
東部第4地区	<p>コロナ禍で育ちにくかったことが幼さに繋がっているようで、クラスの先生と共有して、内面的な育ちを意識していきたい。</p> <p>子どもたちに不安が内在すると困り感が多く見られてしまうので、安心から自信が積み上がっていくように、2つの自尊心を大切に育てていきたいと思った。</p>
東部第2地区	<p>・補欠で1年生のクラスに入ったときに、全体の指示が通らないと感じたことがつい最近ありました。（一見すると聞いている風でした。）先生のおっしゃるよう支援を必要とする児童が本当に増えていて、その理由も多様で複雑になっていると感じます。社会的な背景や家庭の様子など児童をとりまく様々な要因を踏まえて指導することの大切さを感じました。</p> <p>ありがとうございました。</p>
東部第1地区	<p>自信の前にまず安心が必要であることを改めて感じました。でも案外学校では難しいと思っています。安心のためには愛着の形成が大切ですが、これが今は学校でも家庭でも難しくなっているようです。自分と向き合ってくれる、一緒にいてくれる大人になれるのか、日々悩んでいます。</p>
東部第2地区	<p>なんとなく感じていたマスク生活のデメリットのついて、はじめて迫ったお話として素晴らしかったです。（校内の先生にも紹介しました）」</p>
東部第3地区	<p>まずは安心感をもって活動できることが第一で、その上で自身を持たせるという順番が大切だということが分かりました。教室をユニバーサルデザイン化することで、本当に2次的な支援が必要な子どもがわかるようになる、というのはもっともなことだと思います。通常学級の先生方にも、理解を広めていきたいと考えました。</p>
志太・榛原	<p>コロナ禍でたくさんの制限があり、大人も子どももすごいストレスを抱えている中、子どものストレスと向き合っていなかったなあと反省した。マスク生活が長かったので、口をほとんど動かさず、省エネで喋っている子が多く、それが原因で発音が不明瞭になっているとは感じていたが、社会性の基礎・基盤が培っていないまで考えられていなかった。そのため、まず子どもたちの居場所づくりに努め、安心を提供できるようにしていきたいと思った。愛着障害の子が多いので、まず先生がその子の安心できる存在になるように努めていきたい。</p>
志太・榛原	<p>コロナが収まったからといって、コロナ前の状態に戻れる子ども達ばかりではないということがわかりました。コロナが収まった今、コロナ前ともコロナ中とも違った支援を考える必要があります。</p>
浜松	<p>先生の講演で、IQ70から85の子供たちが通常学級に増えてきている、というお話があり、2年前に通常級をもったときの違和感はこのことが関係していたのかと思いました。昔に比べて話が聞けなかったり、板書が写せなかったり、文章が書けなかったり、みんなの前で発表ができなかったりする子が多いなと感じていました。そのため、細かな支援が必要な子が多かったです。コロナの影響もあったのですが、学級経営の大変さを強く感じました。そういった子供たちが増えているとのことなので、今後、通級指導へのニーズも高まっていくのではないかと感じました。ニーズにあった指導ができるように指導を工夫していかなければならないと思いました。</p>

東部第2地区	現代的な課題をととてもわかりやすく整理・提示してくださり、とても納得のいく内容でした。その中でも私が一番心に残ったのは、自信と安心の関係でした。自信は安心の足場がないとひっくり返ってしまうという言葉、常に頭に入れて指導していかなければと感じました。食い入るように見ていたので、時間の経つのが早かったです。ありがとうございました。
磐周	軽度な知的障害の様子を見せる子供の特徴を指導の中で実感しています。コロナ禍で過ごした3年間の溝を埋めるのはなかなか難しいとお話でしたが、言葉で価値を付けていくことを大切にして指導をしていきたいと思いました。子供たちに自信を持たせるためにまず安心できる居場所をつくることを意識して取り組んでいきたいです。
志太・榛原	山元先生は、「皆さんご存知のことかも知れませんが…」と前置きしてくださいました。しかしながら、ぼんやりと分かっている、通級指導教室を取り巻く環境がはっきりしていた訳ではなかったので、研究された視点から通級指導教室を取り巻く環境について教えていただけ嬉しく思いました。コロナの影響は計り知れないと改めて思いました。
志太・榛原	ありがとうございました。先生のお話をお聞きし、子供たちの今の姿は、コロナ禍の3年間が大きく影響しているな、というのを感じました。その視点でも子供たちの表れを見てみないといけな、と思いました。
東部第4地区	コロナとマスクの影響の大きさをつくづく感じました。自尊心を育てるための手立てや社会性の基礎のお話が大変勉強になりました。ありがとうございました。
東部第1地区	通常学級に在籍する児童生徒で特別な支援を必要としている子がたくさんいることを現場でも感じています。また、コロナの影響もありストレスに弱く、どのようにコントロールすればいいのかが分からない生徒が見られます。まずは、通級に通っている生徒もそうですが、子供たちが安心して過ごすことが大事だと思いました。そのために、環境や授業づくり等、講演で教えていただいたので、通級だけでなく他の先生にも伝えていきたいと思っています。
志太・榛原	「安心」というキーワードが一番心に残りました。安心して来てもらえる通級にしていきたいです。
志太・榛原	「これからをどのように考えるのか？」のスライドで示された3つのこと「マインドフルネス」「ユニバーサルデザイン」「個別の支援」を意識していきます。
東部第3地区	コロナの子どもたちに与える影響がこのような形になって現れてくるのだと実感しました。本校の6年生が「コロナ禍で育ちにくかったこと」の内容に見事に合致していたので、この子たちだけのせいではなく、コロナの影響を受けてしまったと気付かされました。コロナの影響を受けたとしても、家庭がしっかりしていれば、それほど心配することはないと思います。しかし、家庭力が乏しい子たちは、よけいに影響を受け、それこそ「気になる子」の増加につながっていきます。まずは「安心する場づくり」が大切で、そこに通級の力が大いに発揮できると思いました。先生のお話をうかがって、通級や学校で大切にしなければいけないことを再認識させていただきました。子どもたちにとって安心できる場を提供していきたいと思います。とても勉強になるお話でした。ありがとうございました。
志太・榛原	「安心あつての自信」という言葉がとても心に残りました。これからユニバーサルデザインを取り入れながら、日常生活のあらゆる場面で安心を与えられるようにしていきたいと思えます。貴重なお話を、ありがとうございました。
志太・榛原	講演会、ありがとうございました。コロナ禍が子どもたちに及ぼした影響はととても大きく、マスクをつけている生活が子どもたちの成長を阻んでしまっているのだと学びました。自閉症の子どもは表情を読み取ることが苦手、ということでしたが、マスクをつけていることによつてさらに難しくなっている、という点が印象に残りました。保育では保育者の表情がととても重要で、顔が隠れてしまうことにもどかしさを感じていました。それは子ども同士でも同様で、友達との触れ合いを十分にできなかった子どもたちは、その時期に身につけるべき大切な力をつけることができなかつた恐れがあるのだと感じました。すぐにその力をつけることは難しいかもしれませんが、大人の関わり方によってコロナ禍の日々を埋めていけたらいいなと思いました。
浜松	年々支援を要する子が特に低学年で増加しています。最近の子どもたちの傾向を聞いて思い当たることも多く、自校だけでなく、社会全体的に表れていることなのかと改めて感じました。子どもが安心して自信をもって成長していくための支援が少しでもできるよう、通級指導に取り組んでいきたいと思っています。

浜松	二つの自尊心。安心の上に自信が乗ってくるということ、確かに。とても参考になりました。 全ての子供に安心の上にと自信をつけていくということが大切だと学びました。 コロナ禍でのマスクの弊害なのか、そもそも発達なのか、その他にも多くの場面で影響があるのだと思いました。
浜松	コロナの影響については、よく分かりました。その影響への対処について次は聞きたいです。
東部第3地区	コロナ禍での子どもについて、考えさせられました。マスクの影響やストレス反応、そして、これから必要なことなど、とても勉強になりました。子どもに安心を与え、その上に自信を積み重ねていけるよう支援していきます。また、子どもにたくさん語らせていこうと思います。
浜松	時間が短くなってしまったので残念でした。当たり前だと思っていることを丁寧に確認していくことの大切さを学びました。
東部第4地区	マスク生活で表情の読み取りにくさ、並行遊びのまま社会性が育たずに一年生になる子達の話がとくに印象に残っています。今までの発達段階と違う子たちがいるということを知っておくと、指導が変わってくると思いました。お話が聞けてとても勉強になりました。ありがとうございました。
静岡	幼児は特に人生の半分以上をコロナで過ごす子たちなので、表情を読むことを覚える時期にマスクは大変でした。習慣化され取ることへ抵抗感がある子もいます。言葉は、声だけではないので表情やボディランゲージを存分に使って挽回していきたいと思います。
東部第2地区	“安心、がやはり大事だということを改めて感じました。安心して活動ができる関係作りを心がけて指導を行っていききたいと思いました。
浜松	「最近おやっと思ふ子どもたち」のお話で、たくさん思い当たることがありました。「安心」の上に「自信」が乗っていることが大切であり、その子に合わせた「安心」を作ってやることのほうが大切だということが良くわかりました。事例もわかりやすかったです。
浜松	タイムリーなテーマでの講演で興味深かったです。通常学級の助勤を多く経験する中で、山本先生のお話の中での気になる子供たちの表れ…どれもこれもあてはまる子供たちが何人もいて本校だけではないのだと感じました。荒れる子供たちへの対応はもちろんですが、通常学級の他の多くの子供たちの心を和やかに豊かにするような活動を意図して実践していこうと思いました。
東部第1地区	・コロナ禍により、子どもたちが受けていた影響は大変大きなものだったと、改めて感じました。 担任からも、マスクを取ったことで指示が入りやすくなったという話を聞きました。コミュニティには、人の顔の表情が大事なものだと感じます。幼児ことばの教室担当としては、口元を見る機会が減ってしまっただけでも、指導に支障が出ていました。今後、取り戻すこともできるというお話も聞けたので、更に工夫しながら指導を行っていこうと思います。また、IQ70からの子ども達については、支援が届きにくいのが現状です。発音は改善したけれど、人とのやり取りや、指示理解、音韻の誤りなど、課題が残りがちです。しかし、学齢言語に入居するには優先順位が低いいため繋げられないことが多々あります。子どもたちがまず安心して生活できるよう、通級に繋がらなかった子たちのためにも、担任の先生方にも聞いてほしいと思いました。 ・山元先生のお話を聞いて、コロナ禍の影響で、おやっと思ふ子どもたちが増えていると改めて思いました。一人一人が自信をもって生活できるようになるにはどうしたら良いかばかり考えてしまっていたのですが、まずは子どもや保護者が安心できるように、寄り添っていききたいと思いました。具体的な支援も教えていただいたので、参考になりました。コロナ禍で、様々なことが経験できなかった子どもたちに価値づけを意識してやっていくことが大切で、そして「今からでも大丈夫ですよ。」との先生の言葉が安心をいただき、励みになりました。ありがとうございました。
志太・榛原	境界知能の子どもたちの進路や日々の課題はコロナ前からも悩ましいものでしたので、コロナ禍でより一層難しさを感じるが多くなりました。心理的に長袖の服や帽子がとれないように、マスクもまた外せない子もいるように思います。
静岡	コロナ禍の生活様式の変化による子どもたちの発達への影響について考える機会になりました。 社会情勢の変化もとらえて、教育にあたりたいと思いました。

志太・榛原	夢中になれる遊びは何か、アセスメントを多角的に取って選び取り組ませていくことはもちろん大切ですが、教師も本気で真剣に一緒に遊ぶということがとても大事だなと実感しました。
東部第1地区	安心が確立されてから、自信をつけていくと、いうお話が、とても勉強になりました。安心感が確立されると教室で自分のよさが発揮されてくるのですね。まずは、通級がスタートで安心感を確立し、教室でも安心できるための支援へと繋げることが役割だと思いました
志太・榛原	講演後、さっそく本校の気になる生徒の担任と話をしました。安心安全が一番大切だということ、まずはユニバーサルデザインで第一次支援、この時点で表れが異なるのに同じ支援では無理があるから個々の支援を考え実行する。これからも先生方と一緒に実践していきたいと思います。
志太・榛原	マスク生活の弊害がこれからどんな形で現れてくるのか心配でした。 講演のなかで、お絵描きの時、鼻を描かない子が増えていると聞き、驚きました。 また、表情を読み取れない子も増えているということにもびっくりしました。
静岡	<ul style="list-style-type: none"> ・実際にコロナ禍の子どもの発達（感情に中間がないなど）があることが分かった。 ・安全あっての自信という積み重ねがあり、安心が大切なのだと分かった。週一時間の通級指導教室でその土台を作るのは難しいが。 ・自己感について「私はこう思うよ。」と伝えてあげることが大事だと思った。自分も、人から言われて気付けることがあった。 ・コロナのせいにしてしまう方が親の気持ちが楽なこともあると思った。 ・本当に、あれもこれもコロナのせいなのかと驚いた。 ・コロナで潰れた行事もあり、次学年へのイメージがもちにくいこと、教員にもたせる工夫が必要だと感じた。
小笠	「2. 最近、おやっと思う子どもたち」...とても納得しました。コロナ禍の3年間は大きいですね。子どもの発達に欠かせないものとしての「密」「身体接触」「身体感覚としての満足感」が制限されてしまったのですから...。まず、子ども（たち）にとって「安心」を積み上げていくことの大切さを改めて知らされました。通級してくる子どもたちに、ことばの教室が安心して自分を出せる場になるよう努めていきたいと思います。
小笠	コロナ禍による環境の変化が、子どもたちにも様々な影響を及ぼしていることが数値的にもよくわかりました。子どもたちの発達に欠かせないことを意識しながら、今後にかかしていきたいと思います。
浜松	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての子どものマインドフルネスの話がとても参考になりました。子どもが自信を持つことがその子の自尊感情が高まる場所に注目してしまいがちですが、その土台として、「安心」が必要不可欠というのを再認識できました。ことばの教室も安心の土台を育てていけるような教室でありたいと思いました。 ・ことばの指導をするにあたり、子どもが安心できる環境づくりや声がけは欠かせないものであり、そのなかで学習を進めることが子どもの意欲や姿勢・学習効果を引き出しやすくするのだと理解しました。そして、その学習経験が自信や自尊感情へとつながり、さらに次のステップでの正の働きへとつながるサイクルを生み出すことととのるのだろうと思うと考え、「安心感」を与えられるような存在でなくてはならないと思いました。
浜松	コロナの影響で、いろいろ子どもたちの状況が変わってきたので、安心感のある教室でありたいと思いました。ありがとうございました。
東部第1地区	コロナの影響が大きく立ちがだかっていると感じます。学力的にグレーな子をいかに救うかを学んだことをもとに考えていきたいです。 自分の支援を振り返ってみると、底辺で子どもを支える「安心」の積み重ねができていたか考えさせられました。
浜松	コロナ禍を経てでしょうか。軽度な知的障害の様子を見せる子どもが増えているのではないかというお話は、納得してしまいました。「利己的な善悪の判断、不適切な自己評価、ネガティブ感情など」の子供たちの特徴が多く感じられます。そんな子達にどんなふうに対応していけばよいのか。やはり保護者の子供へのかかわりを根底に、子どものマインドフルネスを育てることが大事であると改めて感じました。個別指導のできる私たち通級ができることはきっとたくさんあると思います。今後も先生のお話を指導に生かしていきたいと思います。ありがとうございました。

浜松	<p>コロナ禍での制限されていた環境の中で、子供の育ちに影響が出てきていることを改めて知ることができました。今後、その影響がどのような面で現れてくるのかはわかりませんが、環境要因の言語発達の遅れを感じる子供が増えていることは日々感じていました。徐々にコロナ禍以前の生活に戻っていますが、今後、どのような関わりを持っていくことが望ましいのか考えながら指導にあたっていきたいと思いました。</p>
静岡	<p>視聴させて頂きありがとうございました。 コロナ禍がスタートのこどもたちにとり、日常や集団生活を取り戻すにも、大人が求める感覚と違ってきていることを改めて学びました。 こども一人ひとりが、守られているんだ安心していいんだと自覚できるために、園や学校での集団経験が活かされていくことを願いたいと感じました。</p>
静岡	<p>幼児言語教室でもマスク生活の中で口の動きを見て覚える機会を奪われているため、発音指導に通うお子さんが増えたと感じております。今日のお話を聞き、コロナ禍での生活環境を考慮しつつ子ども達と関わっていきたいと思いました。</p>
志太・榛原	<p>IQ70~85の子ども達がとても増えていて、学校現場は非常に困っています。 先生のお話を共感しながら聴かせていただきました。 また、具体的なアドバイス等ありましたら、教えて頂きたいです。 通級だけでなく、学校全体に伝えることができたかと思っています。 お忙しい中、貴重なお話をありがとうございました。</p>
志太・榛原	<p>日々教育現場で子ども達と接していると、コロナによる影響はあるのだろうと感じることがあります。 先生の講演会を拝聴させて頂き、なんとなく感じていたことが、具体的になりました。 子ども達にとって安心できる場を作ること、そして、自信をつけさせてあげること、2つの自尊心が育つようにこれからも日々精進して参りたいと思います。ありがとうございました。</p>
志太・榛原	<p>コロナと子供の育ちについて、日頃自分が感じていたことと重なり、興味深く聴きました。 個別指導だからできることもあると考えさせられました。</p>
小笠	<p>・コロナ禍の中、子どもの表れの中でイライラしている子が多かったり、表情理解ができなかったり、発音の幼児音が残っている子供が増えていたりしたので、今回のお話は、とても共感しました。直接体験を増やしたり、生活リズムを整えたりすることの大切さを学びました。 ・コロナ禍で育ちにくかった安心感、社会性、自立・自律を今から補っていけるような指導を考えていき、子どもの成長の手助けになるよう働きかけていきたい。 ・コロナ禍で、テレビ・スマホ・ゲームの時間が増えてしまったことは、自分もとても感じています。一方小学校ではタブレットの活用が進んでいるので、そういった所の加減が難しいと感じました。人との関わりが減ることを強要された時間を過ごしてきた子どもたちに、これからまた人との関わりや協力する楽しさを伝えていくことはとても大切で必要だと感じました。</p>
浜松	<p>コロナ禍の影響を考慮して子供の実態を受け止めていく必要があると感じました。 マスクやパーテーションなどで視覚的な情報は制限されたが、聴覚的情報を大事にしようという支援を考える機会になった。</p>
浜松	<p>幼児ことばの教室担当と検討し、そちらに打ち込みました。</p>
東部第2地区	<p>コロナが知らず知らずのうちに、こんなにもこどもの育ちに影響を及ぼしているのかと驚いています。意識的にこどもにあった手だてを講じないと、コロナだったからではすまないと思いました。 幼児期の3年間、密を避け、身体接触もままならない日常を過ごしてきたこどもたちが小学校に上がってきています。身体感覚の未熟な子、「最近、おやっと思う子ども」にあたるこどもにたちが増えていて感じます。その中には「ケア」の必要な子もいます。「ケア」はまずは「安心」からということばが一番心に残りました。これから、「ケア」を考える上で「安心」をつくらないと何も積み上がらないことを周りにも伝えていきたいとおもいました。</p>
静岡	<p>コロナ禍の影響をデータで示していただきありがとうございました。コロナ禍の生活の影響はこれから益々あらわになってくるのではないかと感じました。幼児にも鼻がない顔の描く子がおり、マスクの影響もあるのかなと思います。就寝時刻が遅い子も見かけます。 安心の土台の上に自信が形成されるというお話は全ての人にとって大切にしていきたいことだと思いました。</p>

志太・榛原	青島北小では、まず舌の脱力練習をし、次にストローやはぜ菓子などを利用して摩擦の息の練習をしています。今回の研修で、教えていただいたストローの先にスズランテープをつけて視覚化させる方法はとても効果的だと思われるので、ぜひ取り入れて行きたいと思います。
志太・榛原	コロナ禍を過ぎた子どもたちのことを改めて理解し、より深い考察と関わりを持つことを心がけて行きたいと思います。
静岡	コロナ禍で生活した子供たちの実態を知り、それを元にして、今後自分たちのやるべきことを、安心、その上に自信を念頭にしながら行って行きたいと思います。 ユニバーサルデザイン教育について学びたいと思いました。
東部第2地区	この数年で、子どもたちに想像以上の変化があることがわかりました。通級指導教室も在籍学級も、子どもたちが安心できる居場所にしたいと改めて思いました。ありがとうございました。
小笠	こどもたちの現状が大変よくわかりました。コロナ化だけではなく、こどもたちの環境が日々変化していく中で、指導者がアンテナを高くし、こどもたちから安心した笑顔が見られるよう、個に応じた支援の大切さを強く感じました。ありがとうございました。
静岡	コロナ禍で過ごしてきた事が生活スタイルや発達にさまざまな影響を及ぼしていることがわかりやすくまとめられていました。 子どもたちと日々向き合う中で、コロナ禍、マスク生活の影響は決して少なくないだろうと思っており、マスクでの生活が終われば、元に戻ると考えていましたが、支援者は育ちにくかった部分がかかあったことを念頭におき、子どもや保護者に関わっていく必要があると感じました。
磐周	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍のためお絵かきで鼻がない絵を書く子が増えている。育つべきときに育たなかったものがたくさんあると思いました。 ・ 適齢期で経験するのとは後で経験するのとはやはり違うと思うので、その時に経験するのはやはり大事。発音の面からもその時その時期の経験は大きい。 ・ 仕方がないが、おうち時間も増えスクリーンに向かっていく時間が増えているのは発達に大きな影響があったのではないか。 ・ 学校でも意見交換の手段などでタブレットを使うようになってきて、スマホなどのメディアの学習と娯楽での使用の境目が分かりづらくなっている。 ・ コロナ禍を経て、外出したり、いろいろなものに触ったりする経験が本当に大切だと思った。 ・ 不安を取り除くためにUDを取り入れて学校の生活環境を整えてあげることが大切だと思った。 ・ 安心して失敗するという経験する場が失われてしまっていた。 ・ コロナ禍の影響で幼児期に体験できる行事が減少していて、経験不足によるものもあると思いました。
浜松	<ul style="list-style-type: none"> ・ ことばの教室は個別指導であり、その子の特性にあわせ、どうやって安心を作っていくか、取り組みやすく自信につなげやすい可能性を持っていると思います。自分を自分のまま肯定できる支援を心掛けたいです。 ・ 幼児期の発達全般において、子供自身へのアプローチだけでなく保護者への支援の必要性も感じました。 ・ 軽度な知的障害の様子を見せる子供たちが、通常の学級に年々増えていて、学級経営にかなり影響を与え、コロナ禍では、この子供たち自身の困りも多くなっていること、そして、子供全体のコロナ禍での変化を具体的に示してもらい、興味深かったです。
浜松	いろいろな場面で子供へのコロナ禍の影響を感じるようになってきたので、とても興味深く聴かせていただきました。子供も、保護者も支援を必要としている人が多くなっているように思います。まだまだ学び続けたいといけなくて改めて思いました。
志太・榛原	通級指導が2年目で、まだまだわからないことが多くあり、昨年の経験を元に何とか指導をしている感じです。今回の講演を聞いて、今、自分がやっている指導に今後、活かしていけるものがたくさんありました。通級指導教室が安心できる場として、連携を取りながらやっていきたいと思います。

志太・榛原	子どもたちに指導をしていく際、コロナ禍でマスクをして生活した影響を考慮することも必要なのだと感じました。指導者がマスクを外して表情を見せることが大切なのだと改めて感じました。子どもはストレスに気づいたり、それをおさめたりする力が未熟なので、大人が子どもへのかかわり方を考えていかなければならないと思いました。
東部第1地区	分かりやすいお話をありがとうございました。安心の上に自信がつくと言うお話がとくに印象に残っています。そのことを念頭に、日々の指導や環境整備で安心感を持ってもらえるように励んでいきたいです。
東部第3地区	コロナ禍が子どもや大人におよぼす影響について、具体的な視点からお話が伺えて、腑に落ちることがたくさんありました。マスクの影響だったり、関わりの薄さであったりと、子どもの発達過程の大切な時期に与える影響は大きいことを、改めて感じ、今後どのようにして関わっていくべきかを考えさせられました。
東部第4地区	コロナ禍では、消毒、人との距離をとる、マスク生活など様々な場面で気をつかった生活が続き、ストレスから問題行動につながっていたケースも多くあったのだと知った。ストレスを発散する力が未熟のため、子どもが安心して生活できる支援の大切を改めて感じた。マスクの影響が、子どもたちに良くも悪くもあるなど感じました。発達に障がいのあるお子さんの困り感を把握するのも大切だなと思いました。
志太・榛原	コロナ禍での先生方が苦労されていることがわかった。顔が見えないというコロナ禍を過ごし子どもたちのコミュニケーションの空洞をどのように埋めればよいのかと考えさせられました。 今後、私たちが心がけていかなければならないことは、小さなことにも気づきほめる。マスクの中で見えなかった表情が、今は見えるようになったので小さな変化にも気づき、ほめていきたいと思います。
静岡	・自信がないという言葉をよく聞いたり使ったりしていましたが、それ以前の「安心」という土台が大切だと勉強になりました。愛着障害では「安心・安全基地」という言葉がでており、そこに通じることがあるなど思いました。自信の前にまず土台である「安心」という部分をしっかり作っていきたく思いました。 ・児童生徒の背景にあるものは、世の中の情勢にも大きく関わっていると感じました。家庭環境その他の多くの取り巻く環境を、敏感に感じ取り児童生徒理解して安心を与えられる中での指導を心がけていきたいと思えます。 ・通級での指導時に「成功体験を積ませる…」とよく聞きます。自信をつけるため、自己肯定感の向上のために「できた」を増やそうと意識していました。講演を聞いて、その土台となる「安心」を積み上げることが重要であることを知り、改めて「通級」という場所が本人にとって「安心できる場所」でなければいけないと感じました。
志太・榛原	・コロナ禍において、便利な物が増えていく一方で、共有体験といった関わりが減っているようにも思う。バランスが重要であると思うが、子どもたちとの共有体験が増えていくよう指導でできることを考えていきたいと思う。 ・大人との関わりがすごく少ない子ども、その反面、大人の中でしか育っていない子が多くいるように思う。その重要性を強く感じた。
静岡	たくさんのお話を学ぶことができました。その中でも、明日から子どもたちの行動の背景を考えること、まずは一緒にやる、同じものを見て言葉で共有や共感をすること、子どもたちが安心して過ごせる教室を作ることができるように心がけていきたいと思った。